

ことば便り



墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO. 8
TEL 03-3617-6925
令和5年12月1日(金)



展覧会、学習発表会など、秋の行事が行われた学校が多かったことと思います。子供たちはうれしそうに報告をしてくれました。一回り成長した子供たちの姿に頼もしさを感じます。

ことばの教室の活動では、保護者の皆様や在籍校の先生方には様々な形でご協力いただき、ありがとうございました。これからも子供たちがより楽しく毎日を過ごし、意欲的に学校生活に取り組めるよう、支援していきたいと思ひます。来年もよろしくお願ひいたします。



12・1月の行事予定

- | | | |
|-----|------------------------------|--------------|
| | 4日(月) 専門家診断(午前・午後) | ※指導は全日お休みです |
| | 5日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後) | ※午後の指導はお休みです |
| | 6日(水) グループ指導(吃音)(15時半~16時半) | |
| | 9日(土) 押上小土曜授業 | |
| 12月 | 13日(水) お楽しみ会 | |
| | 15日(金) 個別指導終了 | |
| | 18日(月)~23日(土) 指導補充日、保護者面談 | |
| | 23日(土) 押上小土曜授業 | |
| | 26日(火)~1月5日(金) 冬季休業日 | |
| | 9日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後) | |
| | 10日(水) 個別指導開始 | |
| 1月 | 10日(水)~16日(火) 保護者面談 | |
| | 17日(水) グループ指導(吃音)(15時半~16時半) | |
| | 20日(土) 押上小土曜授業 | |
| | 30日(火) 都難言協研究発表会(午後) | ※午後の指導はお休みです |



お楽しみ会 ~ クリスマスリースを作ります!

日時 12月13日(水) 14:50受付開始
15:10~16:30
場所 押上小学校 家庭科室(本校3階)



今回は各自の発表はできませんが、プログラム制作、司会進行、始め・終わりの言葉、グループ考案のゲームなどを児童に任せてもらって、クリスマスリース作りを行います。布にたくさんの切り込みを入れたり、新聞紙を丸めて巻き付けたり、ワイヤーで松ぼっくりをくりつけたりと細かい作業の連続です。頑張ってすてきなオリジナルのリースを作ってくださいね。



読み書きが苦手・・・。どうしたらいい？

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒」の推定値が小中学校で8.8%（文部科学省2022年12月調査結果より）という調査結果があります。35人程度の学級だと3人程度が学習や行動面で困難を抱えていると考えられます。「『読む』『書く』に著しい困難を示す」割合は3.5%という結果でしたから、1クラスに最低1～2人は読み書き障害と思われる児童がいると考えられます。ことばの教室にも、読み書きに困難さがあり通級している児童がいます。困難さの要因が違うため指導内容・支援教材は異なる場合も多いですが、一部紹介します。

◆ 音韻と文字の関係

文字の獲得は、音韻を捉える力（音韻認識）と関係しています。ことばがいくつかの音の塊でできているか、どんな音なのかが分からないなど音韻認識が弱いと右図のように音を抽出できず、文字と対応できません。文字を音に変換することをデコーディングと言いますが、ひらがななど文字が覚えられない児童の多くは、このデコーディングの弱さがあることが予想されます。

「とうもろこし」→「とうもころし」
「おたまじゃくし」→「おじゃまだくし」
しりとりができない



音韻認識は一朝一夕では育ちませんが、日常のことば遊びなどで育てることができます。しりとりや“ためき言葉（「こたえ」→「こえ」、「たまご」→「まご」）”、モーラ（日本語の音の数え方）あて等、ことばの音に注目させます。チューリップの歌を「た」抜きで歌うのも楽しいです。デコーディングの弱さは、カードをフラッシュさせ何度も繰り返し読む方法が有効です。単語を一目で読めるようにしていきます。一般のカルタや文字カード同士のカルタで神経衰弱を試みるのも良いです。こうして文字と音を一致させていきます。

書く際は、音と文字の一对一対応が苦手なので、「すいかのす」「ねずみのね」など絵カードと文字をマッチングさせて映像と一緒に覚える方法が有効です。読み書きに困難のある児童は“何度書いても覚えられない”という経験を積んでいるため、負担なく意欲的に書くことも重要です。ことばの教室では、ことばのビンゴやクロスワード、好きなキャラクターを教材にするなど楽しく書くことを取り入れています。

◆ 文字の読みの困難と長文の読み取り

教科書などの長文は、分かち書きや、スラッシュ（/）・振り仮名を入れる、字間や行間の工夫、紙や文字の色を変える、拡大するなどの工夫をして読みやすくします。しかし、たどたどしいひろい読みの段階では内容の読み取りはできません。読み取るには、**自動化**（読みながら無意識に理解したり単語の意味を考えたりできること）ができる必要があります。読み書き障害の児童はこの自動化が難しいため、配慮が必要です。

◆ ICT機器を活用し、苦しみのない学習へ

得意な学習方法で読み書きの力があっても教科学習の文字量・情報量に追いつくには困難を有します。テストでは、読み困難のため時間がかかり解答まで行き着かない場合もあります。下図のように、読んでもらうと聞いて内容を理解できます。ICT機器の音声読み上げ機能を活用したり、ルビ付きのテストを使用したりするなどの工夫ができます。通級している児童は、在籍学級担任の先生のご配慮でルビ付きテストを使用しています。書きについては、視覚面で不得手さがある場合は、タングラムやジオボードなどで図形概念を育てたり、漢字は部品に分け意味づけしたり唱えて覚えたりする方法を使います。右図のように手書きでなく、ICT機器を使用しキーボードで入力する、発声した音を文字に置き換える音声入力を使う等の方法も有効です。ICT機器の活用が更に進み、様々な学習場面で、児童が不得手さをカバーし得意な方法で学習できるような環境になっていくとよいと思います。

